

経営分析におけるEBPMの確立について

■EBPM(Evidence Based Policy Making)とは

- ①政策目的を明確化させ
- ②政策手段と目的の論理的なつながり(ロジック)を明確にし、
- ③エビデンス(根拠)を可能な限り求め、「政策の基本的な枠組み」を明確にする取組

市政変革の取組では、**EBPM**の要素を取り入れて経営分析を実施する

■経営分析の流れ

	①現状整理	②分析	③課題整理	④改革案の検証	⑤取組案の提示
実施内容	事業クラスターが置かれている客観的状況を整理する。	事業クラスターを構成する事務事業及びクラスター自体の分析を行う。	事業クラスターのアウトカム(成果・効果)を測定・評価を行い、課題を整理する。	課題を解決するための改革案を作成し、予測される効果を検証する。	所要の予算案や条例改正を伴うものは改正案、その他の事業は執行方針を提示する。
とEBPMの関連	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 統計情報等の客観的なデータ収集 ✓ ベンチマーキング(他都市、民間比較) ✓ フレームワーク等を用いた内部・外部環境の分析 ✓ 市政変革の方向性となる初期的な仮説の検証 		<ul style="list-style-type: none"> ✓ ロジックモデルの作成 ✓ KPIツリー等に基づく目標・KPIの設定 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 改革案の影響・効果、因果関係等の試算(シミュレーション) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 施策の実施に必要な資源、課題を解決するための具体的な活動とその成果の達成に至るアプローチの提示

エビデンスに基づく検証を行い、**取組と成果や施策の妥当性等を確認しながら実施**